



TITLE:

編集後記

AUTHOR(S):

千葉, 友里香

---

CITATION:

千葉, 友里香. 編集後記. 京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター紀要 2019, 22: 80-80

ISSUE DATE:

2019-03-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/237846>

RIGHT:

---

## ◆◆◆ 編 集 後 記 ◆◆◆

---

平成 9 年に臨床教育実践研究センターが発足して以来、今年度で 22 年目となりました。平素よりご指導、ご支援をいただいております皆様方のお力添えに、深く感謝申し上げます。

今号では、平成 29 年度に開催いたしました、当センター主催の第 21 回リカレント教育講座のシンポジウム抄録を特集として掲載しております。第 21 回のテーマは『「心の教育」を考える—家族の理解とその支援—』であり、多くの方が参加されました。シンポジウムでは、さまざまな形で家族に対する心理臨床実践に携わり、「家族の理解とその支援」に向き合っておられる三名の先生方よりお話をいただき、大変興味深い内容となりました。

さらに、当センターの活動報告として、公開講座抄録「ユング心理学と今日の科学的知見—夢、元型、コンプレックス、そして心理療法の効果—」を掲載しております。こちらは、平成 29 年 9 月～11 月に当センター外国人客員教授としてご指導いただいたフライブルグカトリック大学教授の Christian Roesler 先生を講師としてお招きした公開講座の講演内容となります。今日の生物学、遺伝学、神経科学の知見を参照されながら、ユングが提唱した夢、元型、コンプレックスといった概念について解説いただき、それらを現代的にどのように捉え直すことができるか、ユング派心理療法の効果をどのように考えることができるかについて、活発な議論が行われました。

また、今号には院生による 3 本の論文が掲載されています。2 本は個人による論文、1 本は研究会による論文ですが、いずれも関連する多くの文献を読みこんだ上での考察が述べられており、今後広く参照されることが期待されます。これらの特集や活動報告、研究論文を通して、当センターの多様な活動の一端を感じていただければ、幸甚に存じます。

当センターも設立から 22 年目となりますが、当初から変わらずにあるのは、心理教育相談室での活動を基礎に置き、日々の臨床実践を大切にするという姿勢であると思います。近年、心理臨床を取り巻く環境は大きな変化を迎えています。そうした状況の中でも、目の前の実践を大切に、真摯に取り組んでいく姿勢を保ち続けていきたいと思います。

皆様方には、本紀要について忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸甚に存じます。今後とも当センターにご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター編集委員会

千 葉 友 里 香